

# ちょっとした気遣い

HK大学：経済学部・経済学科・3年

期間：令和2年8月31日～9月4日（5日間）

今回、私はホテルで、5日間のインターンシップに参加させていただきました。参加させていただいた理由としては、ホテル業界に興味があり、どのような業務をしているのか知りたかったからです。実際に、ホテルでの業務を体験させていただいて、様々なことを学ぶことができました。

まず、一日目は、会場設営のお手伝いをさせていただきました。会場設営で、旗を壇上に掲げるお手伝いをしました。その時、旗のしわ取りや、旗のバランスを見て張り直した時に、細かなところまで気にかけていて、こうした小さな気遣いが大切だと感じました。また、会場設営のお仕事はとても体力のいる仕事だということを身をもって感じました。

二日目は、レストラン業務のお手伝いをさせていただきました。この時に感じたこととしては、お客様にお茶を注ぐときに、お客様にお茶がかからないような方向を向いて注ぐ、座敷の場合は、かがんで対応するなど、ここでもちょっとした気遣いがあると感じました。また、お茶が少なくなっていないか、空いたお皿がないかなど、周りを見て行動しなければいけないと感じました。そして、レストラン業務を体験した時に、周りを見てもっと自分から積極的に行動するということが、自分には足りなかったと気づくことができました。

三日目は、ベットメイクを体験させていただきました。ベットメイクでは、シーツにしわがないようにする、シーツの汚れがないか確認するなど、このようなことが大切だと感じました。ベットメイクをしてみた感想は、楽しい反面、とても体力のいる仕事だと知ることができました。

四日目は、フロント業務の説明や、フロントの近くで挨拶をする立ちんぼなどを体験しました。この四日目でもとても大切だと思ったのは3Sです。3Sとは、スマイル、スマート、スピードです。この3Sが仕事をする際とても大切だということを学びました。また、3Sのほかにも、挨拶が大切だと学びました。挨拶をするのは当たり前だと思われるが、その当たり前がやはり大切だと感じました。

最終日には、ブライダルのお仕事を体験させていただきました。ちょうどその日、新郎新婦さんの前撮りを見学することができました。前撮りの時の新郎新婦さんの笑顔を見ていると、私までも笑顔になりました。元々、ブライダルにあまり興味は無かったのですが、インターンシップを終えてからブライダルにも興味を持つようになりました。

今回、5日間のインターンシップを通して感じたことは、細かなところまで気にかけてお仕事をすることの大切さを学びました。また、自分の出来ていない弱いところを見つけることができました。このような貴重な体験をさせていただき、従業員の皆様には感謝の気持ちで一杯です。インターンシップでの体験を生かして、これからの就職活動を頑張っていきたいと思います。

# 人への思いやり

S J 大学：人文学部・英語学科・3年

期間：令和元年8月14日～18日（4日間）

今回、私はTホテルで4日間にわたってインターンシップをさせてもらった。私はホテル業界がどのような仕事をしているのか詳しくは知らなかったので、インターンシップを終えて、沢山の学びがあった。

1日目と2日目は午前中にチェックアウトされた部屋の枕カバーとシーツの剥ぎ取り、ガウンの回収を全室行った。思っているよりも大変で力が必要な仕事だと実感した。宿泊されたお客様が快適に過ごせるよう、希望通りのお部屋を作り上げるというのは、とても素敵なことだと思った。1日目にシーツの剥ぎ取りに行ったときに、机の上に「今年もありがとうございました。」という置き手紙があって私はとても感動した。前日が花火大会ということもあり、そのことについて書かれたものだと思う。直接感謝の言葉を言われるのも嬉しいが、形として残るものももっと嬉しい。午後からと3日目と4日目は一日中、フロントのお仕事をさせてもらった。最初はどこに何があるのか分からなかったので同大学の先輩に案内して頂いた。フロントでは宿泊者のデータの管理、車の鍵やお客様の荷物の管理まで細かい仕事が行われていた。私はチェックインの際に提供するおしぼりと子供用のアメニティの準備をしたりチラシを枚数分ホチキスで止める作業をしたりした。見学させてもらいながら思ったことは、社員の方々のお客様への対応が素晴らしかったことだ。とても丁寧にその場その場の急な要望に応じていて、お客様も安心して宿泊室に向かう様子が見えかけた。的確な素早い対応が大事だとよく分かった。実習の最終ゴールは、チェックインとチェックアウトが出来るようになることで、チェックアウトは簡単にできたが、チェックインは慣れないと難しいと思った。お客様に確認することは決まってはいるが、言葉に詰まったり、自信をもって喋ることに躊躇などがあった。

私に指導して下さった社員の方は、とても聞き取りやすい声ではきはきと笑顔で接客されていて、私もこんな風になりたいと思える理想の方だった。

接客業でとにかく大事なことは、お客様に満足してもらえる接客をすることであり、そのためには接客する側がお客様の立場に立って物事を考える必要があると、この4日間のインターンシップを通して思った。そしてお客様にはもちろん、同じ立場で働く従業員にも思いやりの心を持ちながら仕事するという大切さも学んだ。

私は、将来人と関わる仕事は絶対条件で考えているので、今回のインターンシップで学んだことは必ずこの先活かすことが出来ると思う。お盆というお忙しい中、受け入れて下さったTホテルの皆さんには感謝の気持ちで一杯である。

# 最高級のおもてなし

R大学：国際文化学部・国際文化学科・2年

期間：平成30年9月3日～7日（5日間）

今回、ホテルでのインターンシップに参加させていただいた理由は、お客様を笑顔にできるサービスや、ホテルの仕事内容や社員の方々の心構えを学びたいと考えたからです。さらに将来は外国の方々と接する仕事をしようと考えているため、海外のお客様への対応について学ぶために参加させていただきました。

インターンシップ中は主に約3時間ずつお客様のお迎えや食事会場裏の手伝いをしました。また、荷物運びなどその他必要に応じて手伝いをしました。今回のインターンシップを通して、ホテルの仕事はおもてなしの精神が何よりも大切だということを実感しました。お客様がより気持ちよく過ごせるようお客様のニーズに合った対応をする、当たり前ではありますが決して簡単なことではありません。インターンシップ中、道や観光スポット、居酒屋や山の名前まで尋ねられることもあり、従業員の皆さんはその都度分かりやすく説明をされていました。また、足湯へ行かれるというお客様には下駄やタオルを貸し出すなど、そのお客様の求める以上のサービスを提供されていました。雨の日にはお客様が観光を中断して早くチェックインされることを想定して、従業員の方も早めに業務にとりかかるといったような臨機応変な振る舞いも印象に残っています。このような従業員の皆さんの洗練された最高級のサービスは、お客様を思うおもてなしの精神の表れだと感じました。

また、今回のインターンシップでどのような職業にも人から見えない仕事の重要性を再確認しました。今まではホテルの仕事といえば常に人と接しているというイメージでしたが、ホテルを回すために裏で仕事をすることもありました。表側では人に感謝される仕事がある一方で、縁の下の力持ちの存在があります。当たり前のことではありますが、華やかなホテルの裏側には普段は見えない多くの人の努力があることを、身をもって感じることができました。

このインターンシップは私にとって初めてで分からないことも多くありましたが、温かく迎えてくださり、また従業員の方に直接お話を伺ったりアドバイスをいただいたりと、今後就職活動をしていく自分にとって大きな糧になりました。

同時にホテル業の実際の現場を知ることができ嬉しく思います。

このような貴重な機会をいただいたホテル従業員の皆様に御礼申し上げます。

# チームで働くということ

Y大学：教育学部・学校教育教員養成課程・3年

期間：平成29年9月11日～15日（4日間）

今回のインターンシップの目的は自分の興味のある業界に触れ、働くということを学ぶことでした。今までアルバイトで接客業をしてみてお客様がよるこんでくださった経験から、ホテル業界ではどのようなおもてなしをするのか、どのような業務があるのかなどに興味を持つようになり、今回のインターンシップを体験してみたいと思いました。私が体験させてもらった業務は、玄関でのお出迎え業務とお食事処の裏方の仕事でした。この二つの業務を通して様々なことを学ばせていただきました。

まず、玄関でのお出迎え業務では、駐車場の整理やお客様の荷物をロビーまでお運びするといったことが主な業務でした。そこでは、お客様がスムーズに動けるように工夫がなされていました。車で来られたお客様に宿泊か入浴かを尋ね、ほかのスタッフに1番、2番と合図をしていました。そうすることで、お客様のカギを預かるための準備や宿泊の荷物を取りに行くなど先を読んでチームでおもてなしすることができ、お客様が快適に過ごすことができるということがわかりました。また、玄関の自動ドアを開けたり、「段差に気をつけてください」といった声かけなど、1つ1つの動作におもてなしのところが込められていました。お客様も「ありがとう。」と笑顔になっていました。そのような気配りがホテル業界ではとても大切だということを知りました。また、長時間立ち続け、重たいお客様の荷物を運んだり体力も必要な仕事だということも身をもって体験することができました。

つぎは、お食事処での裏方の業務でした。私はお客様が食べ終わったあとのお皿を下げるという仕事をさせていただきました。初めはよくわからず、洗い場の台の上にお皿を並べていました。しかし、それではお皿を洗う人が洗いにくいということをスタッフの方に教えていただきました。同じお皿は重ねて置く、生ごみや紙はゴミ箱に捨てておくなど小さな工夫で他の方の仕事がスムーズにいくということがわかりました。また、スタッフの方はテキパキと動き、どこに何の料理を運ぶのかなどをお互いで確認しあいながら間違いのないように分担していました。私は、自分の仕事のことしか考えることができていなかったと自分の未熟さを知りました。それと同時に、一人で働くのではなく、チームで一丸となって仕事をすることでお客様に満足していただけるおもてなしができるのだなということを知ることができました。また、折り紙で一つ一つわかを作り、箸止めにするという仕事も体験させていただきました。細部まで、おもてなしのところが行き届いていることを発見することができました。

私は、今回のインターンシップを体験し、ホテル業界には数多くの仕事があるのだということを知りました。また、その一つ一つの業務も欠けてはお客様に満足のゆくおもてなしをすることができないということも実感しました。そのためには、チームで働いているということを常に意識しながら動くことが大切だと思いました。またこの事実は、どの仕事にも当てはまると思うので、これから自分が社会に出て働くときに役立てようと思います。夏休みの4日間で数多くのことを学ぶことができ、とても貴重で充実した時間になりました。これからにつなげていきたいと思っています。

# 働くということ

KJ大学：文学部・英文学科・3年

期間：平成28年8月5日～12日(5日間)

今回のインターンシップの目的は自分が興味をもっている業種について触れてみることでした。自分が観光業に少し興味があり、観光に携われるお仕事を体験してみたいと考えていたので夏休みを利用しての今回のインターンシップで貴重な体験をさせていただいたと思っています。

私のインターンシップ先はホテルでしたが、実習内容として行ったものは想像していたものとは大いに異なりました。インターンシップが始まる前はホテルの仕事といえばフロント業務、ベルボーイといった接客が中心の業務のことばかりが頭に浮かんでいました。しかし、実際に実習で行った業務は宴会班のお手伝いでした。こちらは昼食又は夕食として宴会のご予約をされたお客様のために会場やお食事のセッティングをするお仕事で、接客といった表側の業務だけではなくお客様がいらっしゃる場所でも時間をかけてその日行われる宴会の準備をするという裏方の業務も多くありました。基本的に会場をセッティングする時は、最初にその会場に掃除機をかけ、その後テーブルクロスを敷き、椅子を配置する必要があります。椅子を配置するにも人数によってその都度配置を考えていく必要があるため、体も頭も使わないと務まらない仕事でした。特に、掃除機をかけるにしても1つの会場が広いと時間がかかりますし、体力も必要とされます。椅子もきれいに配置することを意識しつつ行うので神経も使いますし、片付けの際に回収することになるのでこちらも体力が必要とされました。1日に異なる2、3箇所の会場で昼も夜も予約をいただいているときには宴会の準備はもちろんのこと、用意しなければならない食事の数も多くなるため、厨房の方々は汗だくになりながら一生懸命にお料理を作ってもらっていました。厨房で作られる料理も会場のお客様によって和食、中華、洋食というように分かれており、それらの料理を同時間に並行して作っていかないと行けないため、時間を先読みする力も私たち宴会班と同様に必要とされていることがわかりました。特に、ご飯などは冷めた状態でお客様の前に出すのではなく、温かい状態で出すようにといった配慮もあり常にお客様の立場になって考え、お仕事にあたってらっしゃった姿が印象深く残っています。

また、職場には同世代の方も多く、自分より早くから社会に出て働いている方が世の中に他にもたくさんいらっしゃると思うと、立派だなという気持ちになり大学生活を送る中では感じることでできない刺激を受けることができました。分からないことも尋ねやすかったですし、丁寧に指導して下さって嬉しかったです。短い期間でしたが一緒に働くことができ、光栄でした。

今回のインターンシップを通してホテルと一言に言っても、お客さんが宿泊されるだけの場所ではなく、全体としてお客さんがくつろげる場所をご用意することが求められていることがわかりました。華やかな世界だからこそ、その裏で働いている方々は大忙しでお仕事にあたっている、この事実はこの業界には当てはまるのではないかと思います。夏休みの5日間で自分が興味をもっている業種の裏側を見ることができ、充実した日々が送れたように思います。この経験を今後の自己分析にうまく活かしていきたいです。